

◆ 今週のコメント

- 新型コロナウイルス感染症の報告が1,296例あり、本年の累積報告数は106,598例になりました。本感染症の最新の動向及び詳細については下記URLをご参照ください。
○新型コロナウイルス感染症 最新の動向
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000268303.html>
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(10歳代女性)ありました。本年の累積報告数は6例となりました。発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については、下記URLを御参照ください。
○腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)
<https://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- レジオネラ症(肺炎型)の報告が1例(70歳代女性)あり、症状は発熱、呼吸困難、肺炎です。本年の累積報告数は14例となりました。
- 侵襲性インフルエンザ菌感染症の報告が1例(70歳代男性)あり、症状は肺炎、菌血症です。本年初めての報告です。
- 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(10歳未満男性)あり、症状は発熱、痙攣、菌血症です。本年の累積報告数は13例となりました。
- 水痘(入院例)の報告が1例(20歳代女性)あり、症状は発熱、発疹です。本年の累積報告数は2例となりました。
- RSウイルス感染症の定点当たりの報告数は1.07となり、前週の0.72から増加しました。第20週から5週連続で報告数が増加しており、今後の発生動向に注意が必要です。

◆ 今週のトピックス:<感染性胃腸炎>

本市における今週の感染性胃腸炎の定点当たり報告数は4.67であり、4月より増加傾向にあります。本市の過去10年平均を見ると、感染性胃腸炎は10月～翌1月の冬に大きな流行があり、4月～6月の春から初夏にかけても弱いピークが見られます。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- 二類:結核 5例(肺結核 3例、その他結核 なし、潜在性結核感染者 2例)うち喀痰塗抹陽性 1例
【1月以降の累積報告数 109例(肺結核 50例、その他結核 27例、潜在性結核感染者 32例)うち喀痰塗抹陽性 19例】
- 新型コロナウイルス感染症 1,296例【1月以降の累積報告数106,598例】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 6例】
- 四類:レジオネラ症 1例【1月以降の累積報告数 14例】
- 五類:侵襲性インフルエンザ菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 13例】
- 五類:水痘(入院例) 1例【1月以降の累積報告数2例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69、小児科定点43、眼科定点10、基幹定点1)

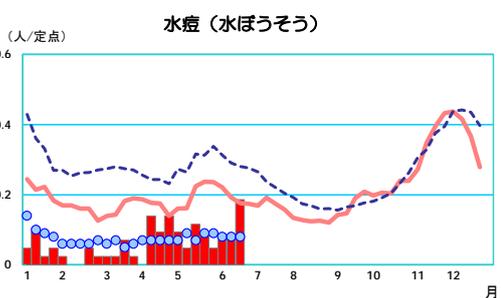
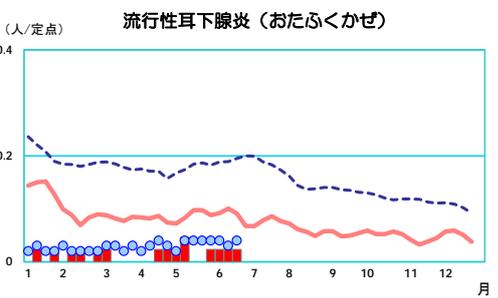
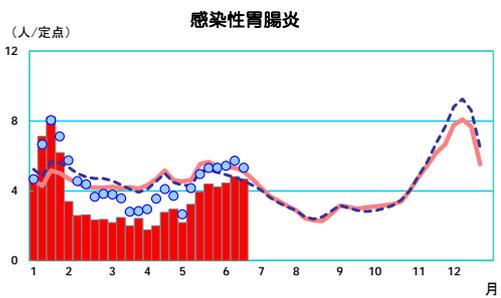
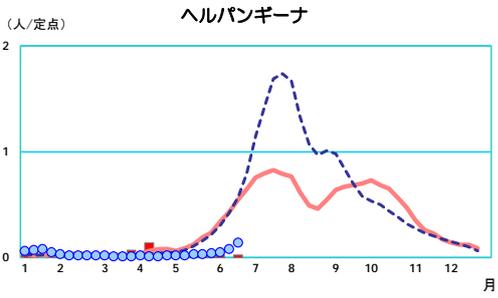
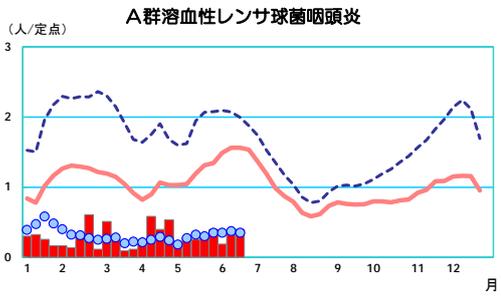
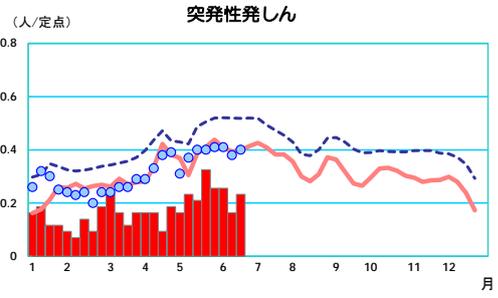
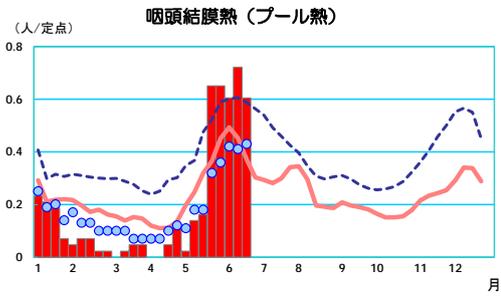
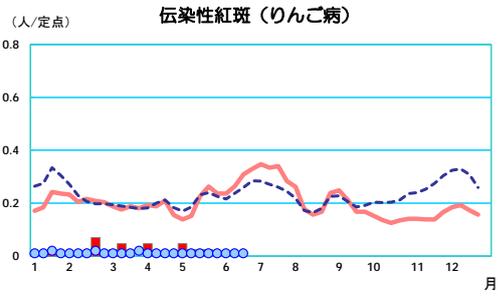
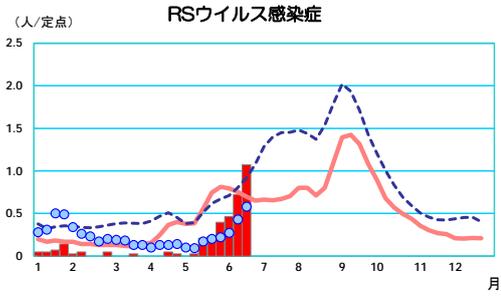
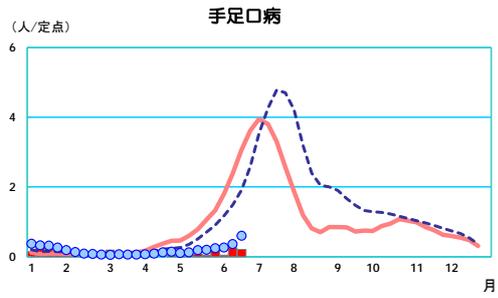
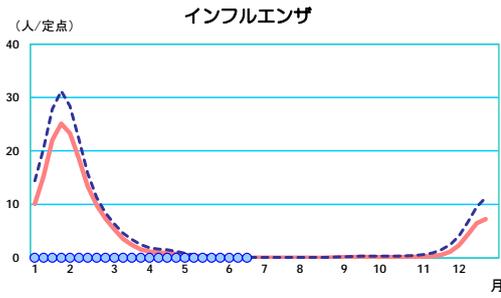
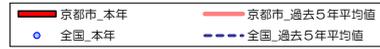
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	4.67	201
	② RSウイルス感染症	1.07	46
	③ 咽頭結膜熱	0.60	26
	④ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.40	17
	⑤ 突発性発しん	0.23	10
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

【次ページ以降の主な内容】

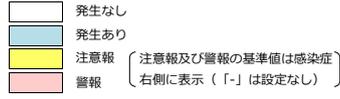
発生状況の概況グラフ / 発生状況地図 / 今週のトピックス:<感染性胃腸炎>
付表(疾病、行政区別報告数 / 年齢階級、疾病別報告数 / 週、疾病別報告数)

(注)京都市のデータは、2022年6月29日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。
* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

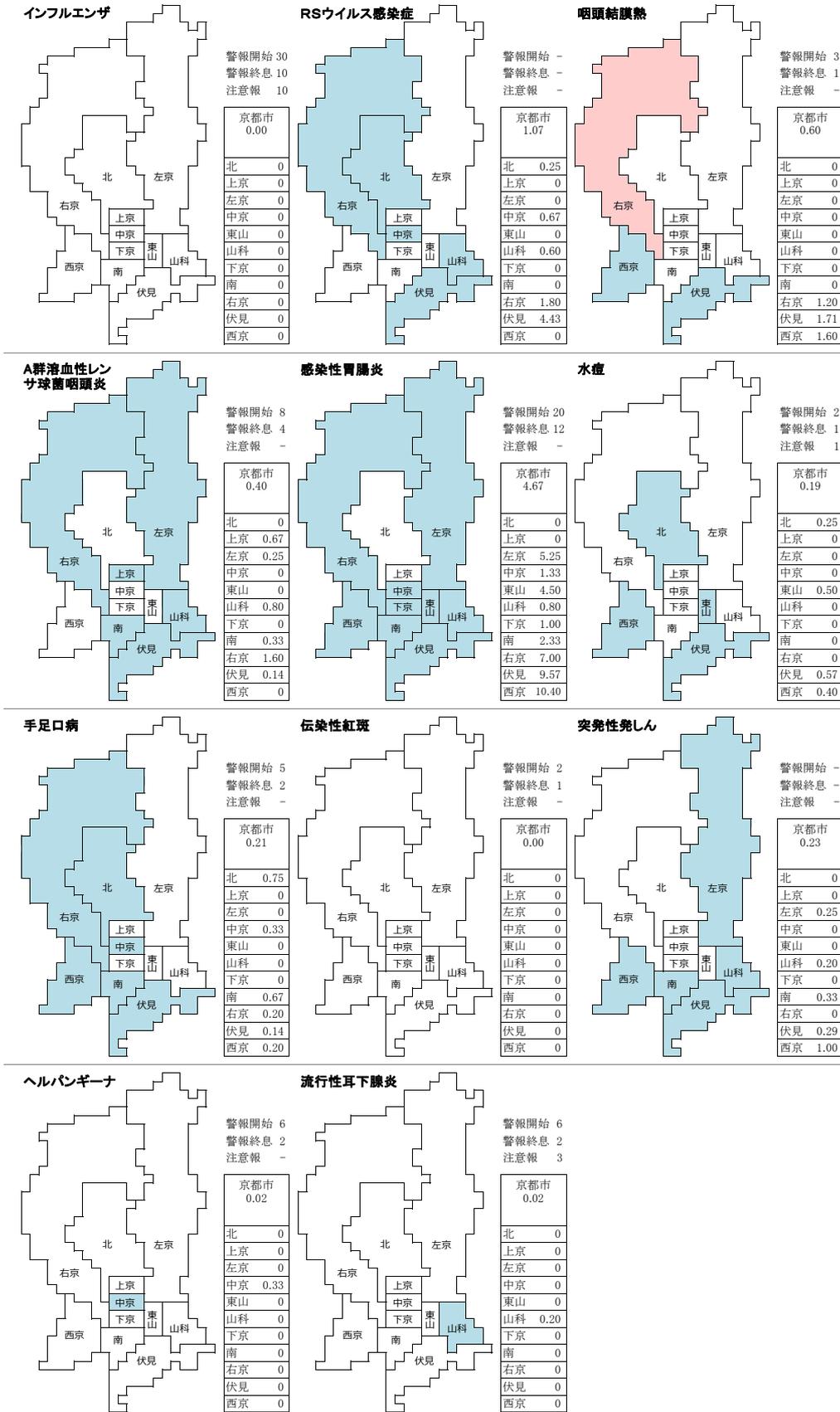
インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（2022年）



インフルエンザ及び小児感染症の発生状況地図【2022年第25週】



定点医療機関の所在地に基づいた集計結果となっています。
したがって、定点当たり報告数は医療機関の立地条件や
規模の大小の影響を受ける場合がありますので、ご注意ください。



第25週(6月20日～6月26日) トピックス: <感染性胃腸炎>

本市における今週の感染性胃腸炎の定点当たり報告数は4.67であり、4月より増加傾向にあります(図1)。本市の過去10年平均を見ると、感染性胃腸炎は10月～翌1月の冬に大きな流行があり、4月～6月の春から初夏にかけても弱いピークが見られます。

新型コロナウイルス感染症発生以前の2019年には、過去10年平均と同様の傾向が見られましたが、2020年の冬から翌春の流行が見られなくなり、2021年の冬には急激に増加して過去10年平均を上回る流行が発生しました。今年は春のピークが見られず、例年では減少する初夏にかけて増加しつつあり、昨年とも異なる推移が見られます。全国でも同様の傾向が見られますが、直近5週間は本市より高く推移しています(図2)。年齢構成比の推移をみると、本市・全国ともに10年間、1歳以下で全体の20%以上を、5歳以下で全体の60%前後を占めており、未就学児の患者が多いことが分かります(図3、4)。

感染性胃腸炎は感染症法において5類感染症(定点把握疾患)に指定されていますが、単一の病原体による特定の感染症を指すのではなく、嘔吐や下痢を主な症状とする感染症を一括して扱う症候群です。原因となる病原体には、細菌(カンピロバクター、腸炎ビブリオ、大腸菌等)やウイルス(ノロウイルス、ロタウイルス、アデノウイルス等)だけでなく、寄生虫(アニサキス、原虫等)も含まれ多岐にわたります。このうち、冬の流行はノロウイルス、春はロタウイルスが主な原因です。これらの病原体が付いた手で口に触れて感染したり(接触感染)、汚染された飲食物を口にする事で感染します(経口感染)。

種々の病原体が原因となりますが、嘔吐や下痢といった症状から個々の感染症を診断するのは困難です。過去にはロタウイルスによるものを「乳児嘔吐下痢症」として扱っていましたが、その中にはノロウイルスによるものが多く含まれていました。このため現在では、感染症法で指定されているものを除き、主に嘔吐や下痢が急性にみられるものを感染性胃腸炎としています。

原因が細菌や寄生虫であれば投薬が有効な場合もありますが、通常は水分補給など対症療法を行います。特に、小児では嘔吐や下痢で急速に脱水状態になることがあるため、経過に注意が必要です。

ロタウイルスについては乳児が対象の定期接種が行われていますが、ほとんどの病原体にはワクチンがありません。感染性胃腸炎を予防するために重要なのは、適切な手洗いと十分な加熱調理です。外出後やトイレの後、調理や食事の前には石けんを使って手を洗うこと、調理の際には食材を中心まで85～90℃で90秒以上加熱することが大切です。

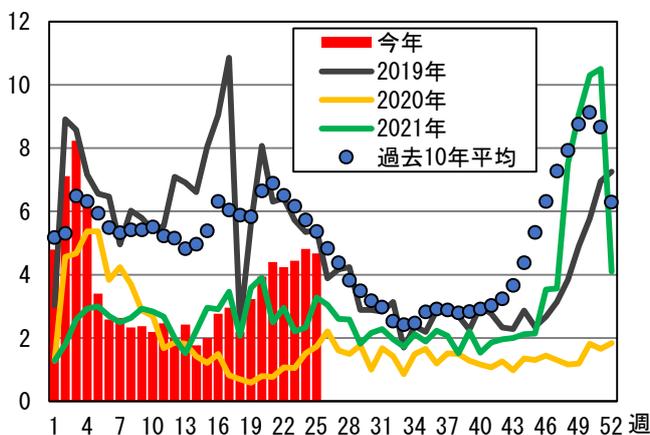


図1. 感染性胃腸炎の定点当たり報告数(京都市)

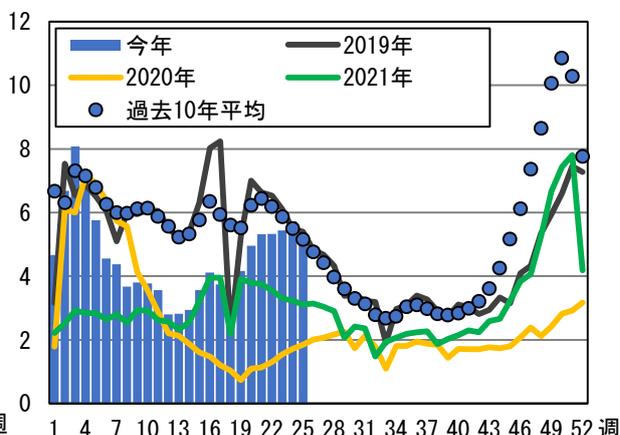


図2. 感染性胃腸炎の定点当たり報告数(全国)

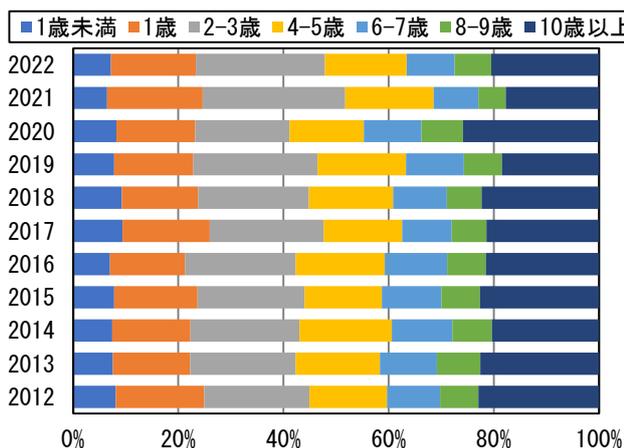


図3. 感染性胃腸炎の年齢構成比(京都市)

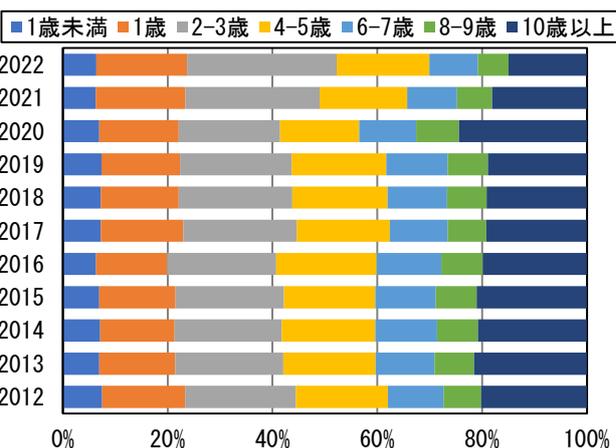


図4. 感染性胃腸炎の年齢構成比(全国)

※図中の2022年のデータは、第1週～第25週までを示している。

T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第25週

疾病、行政区別報告数

2022年6月20日～2022年6月26日

データ入手日:2022年6月29日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)	
男女合計	-	1	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	1	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	1	21	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	2	-	-	4	-	1	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	9	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	3	-	4	4	-	-	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	1	7	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	9	6	8	35	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
伏見	-	31	12	1	67	4	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	8	-	52	2	1	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	46	26	17	201	8	9	-	10	1	1	-	2	-	-	-	-	-	-

疾病、行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (※3)	感染性胃腸炎 (※4)	
男女合計	-	0.25	-	-	-	0.25	0.75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北	-	0.25	-	-	-	0.25	0.75	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
上京	-	-	-	0.67	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
左京	-	-	-	0.25	5.25	-	-	-	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中京	-	0.67	-	-	1.33	-	0.33	-	-	0.33	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-
東山	-	-	-	-	4.50	0.50	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
山科	-	0.60	-	0.80	0.80	-	-	-	0.20	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
下京	-	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南	-	-	-	0.33	2.33	-	0.67	-	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
右京	-	1.80	1.20	1.60	7.00	-	0.20	-	-	-	-	-	1.00	-	-	-	-	-	-
伏見	-	4.43	1.71	0.14	9.57	0.57	0.14	-	0.29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
西京	-	-	1.60	-	10.40	0.40	0.20	-	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
京都市計	-	1.07	0.60	0.40	4.67	0.19	0.21	-	0.23	0.02	0.02	-	0.20	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3202

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第25週

年齢階級、疾病別報告数

2022年6月20日～2022年6月26日

データ入手日:2022年6月29日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	46	5	6	21	9	1	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		26	-	4	12	3	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	3					
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		17	-	1	1	5	2	2	-	2	1	1	-	1	-	1						
感染性胃腸炎		201	1	16	31	19	24	13	13	14	8	18	6	18	6	14						
水痘		8	-	-	2	-	-	1	2	-	-	1	1	1	-	-						
手足口病		9	1	1	1	3	1	1	-	1	-	-	-	-	-	-						
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
突発性発しん		10	-	4	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
ヘルパンギーナ		1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
流行性耳下腺炎		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1					
急性出血性結膜炎		年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級、疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
男女合計	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	1.07	0.12	0.14	0.49	0.21	0.02	0.05	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		0.60	-	0.09	0.28	0.07	0.02	0.07	-	-	-	-	-	-	-	0.07						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.40	-	0.02	0.02	0.12	0.05	0.05	-	0.05	0.02	0.02	-	0.02	-	0.02						
感染性胃腸炎		4.67	0.02	0.37	0.72	0.44	0.56	0.30	0.30	0.33	0.19	0.42	0.14	0.42	0.14	0.33						
水痘		0.19	-	-	0.05	-	-	0.02	0.05	-	-	0.02	0.02	0.02	-	-						
手足口病		0.21	0.02	0.02	0.02	0.07	0.02	0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-						
伝染性紅斑		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
突発性発しん		0.23	-	0.09	0.14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
ヘルパンギーナ		0.02	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
流行性耳下腺炎		0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.02						
急性出血性結膜炎		年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎		0.20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.10	0.10	-	-	
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
無菌性髄膜炎			-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
感染性胃腸炎(※4)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:2022年第25週

週、疾病別報告数

データ入手日:2022年6月29日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	9	10	17	20	31	46
咽頭結膜熱	7	28	28	26	31	26
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11	12	17	8	15	17
感染性胃腸炎	169	189	182	191	207	201
水痘	5	4	2	3	3	8
手足口病	3	2	8	2	11	9
伝染性紅斑	1	1	-	-	-	-
突発性発しん	9	14	11	11	7	10
ヘルパンギーナ	1	1	1	1	-	1
流行性耳下腺炎	-	-	1	1	1	1
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	1	2	-	-	2
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	216	262	269	263	306	321

週、疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	0.21	0.23	0.40	0.47	0.72	1.07
咽頭結膜熱	0.16	0.65	0.65	0.60	0.72	0.60
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.26	0.28	0.40	0.19	0.35	0.40
感染性胃腸炎	3.93	4.40	4.23	4.44	4.81	4.67
水痘	0.12	0.09	0.05	0.07	0.07	0.19
手足口病	0.07	0.05	0.19	0.05	0.26	0.21
伝染性紅斑	0.02	0.02	-	-	-	-
突発性発しん	0.21	0.33	0.26	0.26	0.16	0.23
ヘルパンギーナ	0.02	0.02	0.02	0.02	-	0.02
流行性耳下腺炎	-	-	0.02	0.02	0.02	0.02
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.10	0.10	0.20	-	-	0.20
細菌性髄膜炎 (※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)	-	-	-	-	-	-
合計	5.10	6.17	6.41	6.12	7.12	7.62

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。